

Dziękuję bardzo

ポーランド点描新聞
『人空羽衣遠』①
ワイダ監督のことば

アンジェイ・ワイダ監督を偲ぶ



ポーランド映画を代表する巨匠アンジェイ・ワイダ監督が昨年10月に90歳で永眠されました。遅ればせながら、

心からご冥福をお祈りします。

2017年6月

アンジェイ・ワイダ氏はポーランドを代表する映画監督として世界的に活躍されました。氏が映画の道に進まれるきっかけになったのは、若い頃に見た日本の浮世絵でした。映画監督としては、「過去を未来につなぐ」という信念のもとにナチスやソ連の暴虐と戦う市民の姿を描き、実生活でもワレサ議長率いる「連帯」活動に参加、ポーランドの民主化に大きく貢献されました。氏の言葉には、激動の人生で磨かれた厳しい教えがこめられているように思います。同時に、あふれるばかりの日本への思いも込められています。

ワイダ監督のことば

★戦時中のドイツ占領下にクラクフで開催された日本の美術展を鑑賞し、これまで目にしたことのない、明るさ、光、規則性、調和と出会いました。それは、私の人生における、真の芸術との最初の出会いでした。

★その鍛錬し尽くされたような表現力には驚きました。当時、絵を描き始めていた私は、荒々しさを描き出すときにどう筆を抑えるか必死で学ぼうとしていました。北斎の描く大波に強い感銘を受けました。



(葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」)

★どうして日本に特別な関心を抱いたのか、いくつもの可能性があったにも関わらず、なぜこんなにも遠い国に興味を持つことになったのかと、よく聞かれます。

★答えは簡単です。日本では心から親しみが持てる人々と出会いました。言葉も分からず、習慣もほんの少ししか知りませんが、日本人のことをとてもよく理解できるのです。

★日本人は、真面目で、責任感があり、誠実さを備え、伝統を守ります。それらは全て、私が自分の生涯において大事にしている精神です。

★日本と出会ったおかげで、このような美しい精神が、私の想像の中だけで存在しているわけではないことが分かりました。そのような精神が、本当に存在するのです。

日本の皆さんへ

2011年3月11日に発生した東日本大震災の時に、アンジェイ・ワイダ氏は次のような温かいメッセージで日本を励ましてくださいました。

日本の友人たちへ。

このたびの苦難の時に当たって、心の底からご同情申し上げます。深く悲しみをともしると同時に、称賛の思いも強くなっています。恐るべき大災害に皆さんが立ち向かう姿をみると、常に日本人に対して抱き続けてきた尊敬の念を新たにします。その姿は、世界中が見習うべき模範です。

ポーランドのテレビに映し出される大地震と津波の恐るべき映像。美しい国に途方もない災いが降りかかっています。それを見て、問わずにはいられません。「大自然が与えるこのような残酷非道に対し、人はどう応えたらいいのか」

私はこう答えるのみです。「こうした経験を積み重ねて、日本人は強くなった。理解を超えた自然の力は、民族の運命であり、民族の生活の一部だという事実を、

何世紀にもわたり日本人は受け入れてきた。今度のような悲劇や苦難を乗り越えて日本民族は生き続け、国を再建していくでしょう」

日本の友人たちよ。

あなた方の国民性の素晴らしい点はすべて、ある事実を常に意識していることにつながっています。すなわち、人はいつ何時、危機に直面して自己の生き方を見直さざるをえなくなるか分からない、という事実です。

それにもかかわらず、日本人が悲観主義に陥らないのは、驚くべきことであり、また素晴らしいことです。悲観どころか、日本の芸術には生きることへの喜びと楽観があふれています。日本の芸術は人の本質を見事に描き、力強く、様式においても完璧です。

日本は私にとって大切な国です。日本での仕事や日本への旅で出会い、個人的に知遇を得た多くの人々。ポーランドの古都クラクフに日本美術・技術センターを建設するのに協力した仲間たち。天皇、皇后両陛下に同行してクラクフを訪れた皆さんは、日本とその文化が、ポーランドでいかに尊敬の念をもって見られているか、知っているに違いありません。

2002年7月の、あの忘れられないご訪問は、私たちにとって記念すべき出来事であり、以来、毎年、私たちの日本美術・技術センターでは記念行事を行ってきました。

日本の皆さんへ。

私はあなたたちに思いをはせています。この悪夢が早く終わって、繰り返されないよう、心から願っています。この至難の時を、力強く、決意をもって乗り越えられんことを。

ワルシャワより

アンジェイ・ワイダ

戦争で亡くなった人の声に

★私たち戦争で生き残ったものは、亡くなった人の声に耳をかたむけ、その記憶を伝えなければならないと思うのです。